

911.3
7"

上
池

草莽の

辛男をり

軒の字采

太白堂

孤月



和

文政十二己丑年

載且

草莽の

年男をり

軒の字采

太白堂

孤月



春興

吹ぬ日も心方にはあまの春の風

孤月

戊子

歳暮

ゆくとくを度しやまはるの鳥

立

東君

東雲も日影のほろやう始

孤圓齋

鏡

やう雲の春と風ふれぬ

孤月

きなたまひ古御殿も賑わさ

夫雪



春光

露のふり月の世も昔も如く
一鏡

曆軸

大年の時照すや星明り
上

二

和清

旭梅樹

神谷

初その何ともあらずと先結し

篠よさるるをしるす女あそ

孤月

船に舟のまさを語らそ

東之



春色

よもぎ末にんまふすむねむらさき

神谷

大呂

帝幸の御ついでに

全

淑氣

白堂

桃雨

一りたりもちる也初曆

をくまぬる月夜の友

孤月

春先の袖はくは

白南



駘蕩

甲の糸を六徳とくうひさう

極西

晩冬

年のねもねのまをそをねりき

三

迎陽

太溪堂

雙府

築をたきもまきふくをねの春

幼車風いさむ柳の浮連繩

孤月

庭をみても二見の浦をみ

静江



淑景

赤う針と細や雀の末を接ふ

雙府

弟月

藤より妻やおのゑ山のしほ

全

五

上日

之初や丸く宝珠の山を結ふ

世徳堂

雞園

海もそくはふりぬ

孤月

風拂ふこゝろに柳葉

空月



麗天

雲より砂粒をふりまけり

難尋

歳闌

車おとさうらふてまきり

全

改且

蒼園

一志

糸よほりてさうとぬり初り影

木や井よぬる岩のまゆき

孤月

葉よ井首へのまきり針を

兔明



芳天

浮き花のうらやむの類

一志

黄冬

松のこころをよめる

五

緑天

手巻子

太志堂

足母もやこのえりお右左

踏船

水端しを梅の志

孤月

半馬をせめする

哦丈



春姿

けりやうきく霞くさく津

雪

三冬

茶一のひまも持ぬる茶の葉

土

八

青帝

紅飾世柄の風ハ青はまき

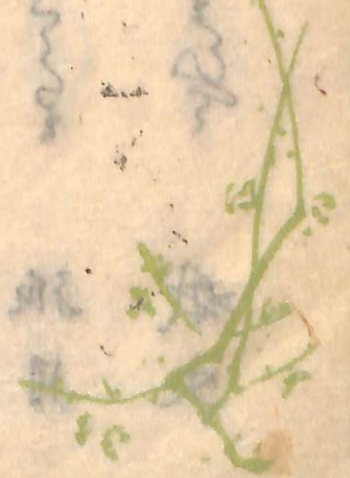
古堂

踏ひろろりー初ぬのま

孤月

神いよまも余り手終ひまきりそ

夫空



韶光

雪の月おと母のまゝ

古笠

季冬

海をいそぐ舟は揚屋

立

聖節

年ふたふたを思ふれ

左故亭

先朝

日よ母にほろ酒のまを

孤月

楼千をぬかぬ里も

东之



日和光

春の空乃愈も濃る者も

先朝

曆末

春の空乃愈も濃る者も

立

新正

栴知堂

文狂

春の空乃愈も濃る者も

春の空乃愈も濃る者も

孤月

春の空乃愈も濃る者も

白南





和景

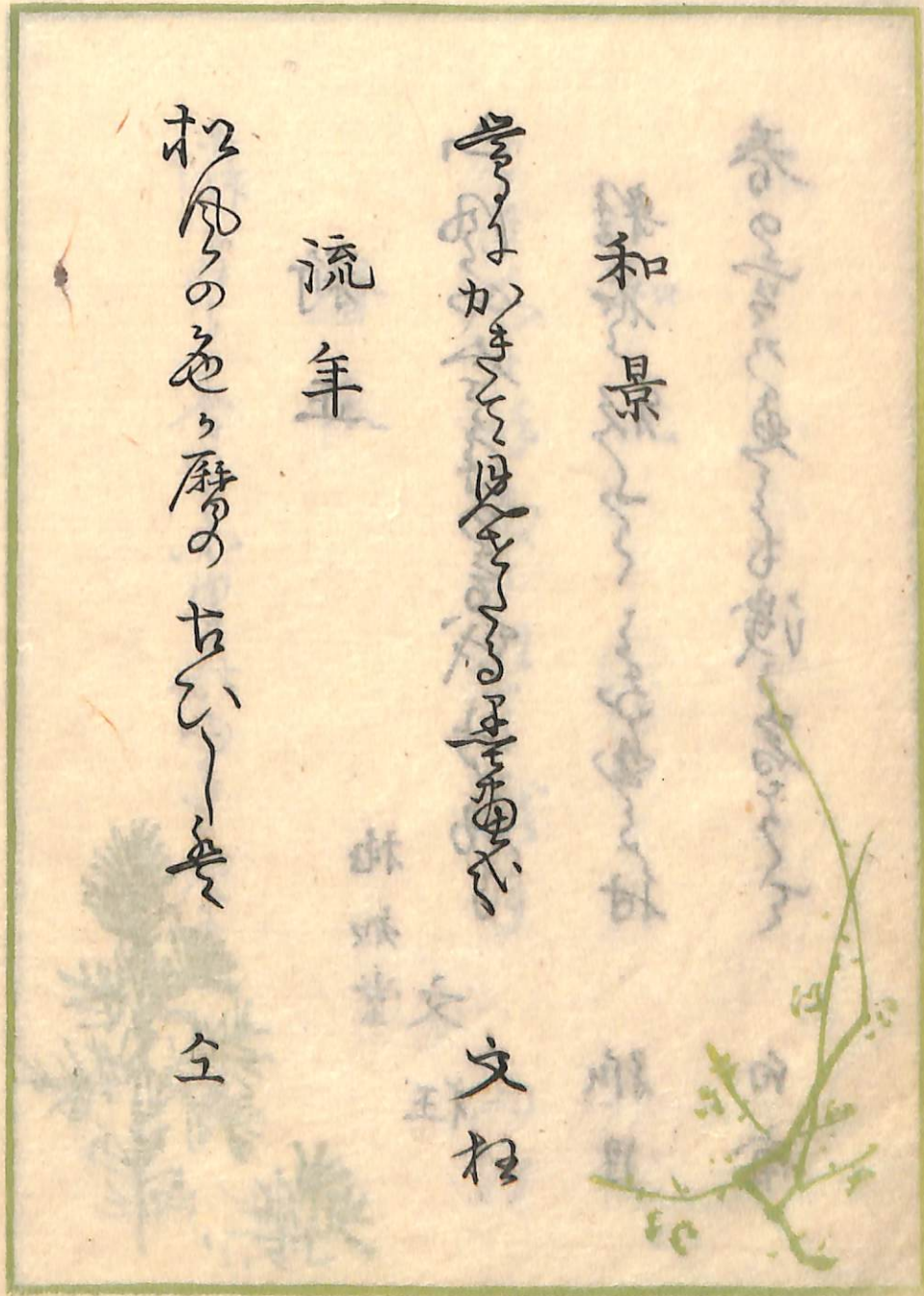
昔よりかきこひしはなをよみしはなをよみし

文相

流年

松風の色々靡の古い〜

全



佳節

極寺堂

神々のまをよみしはなをよみし

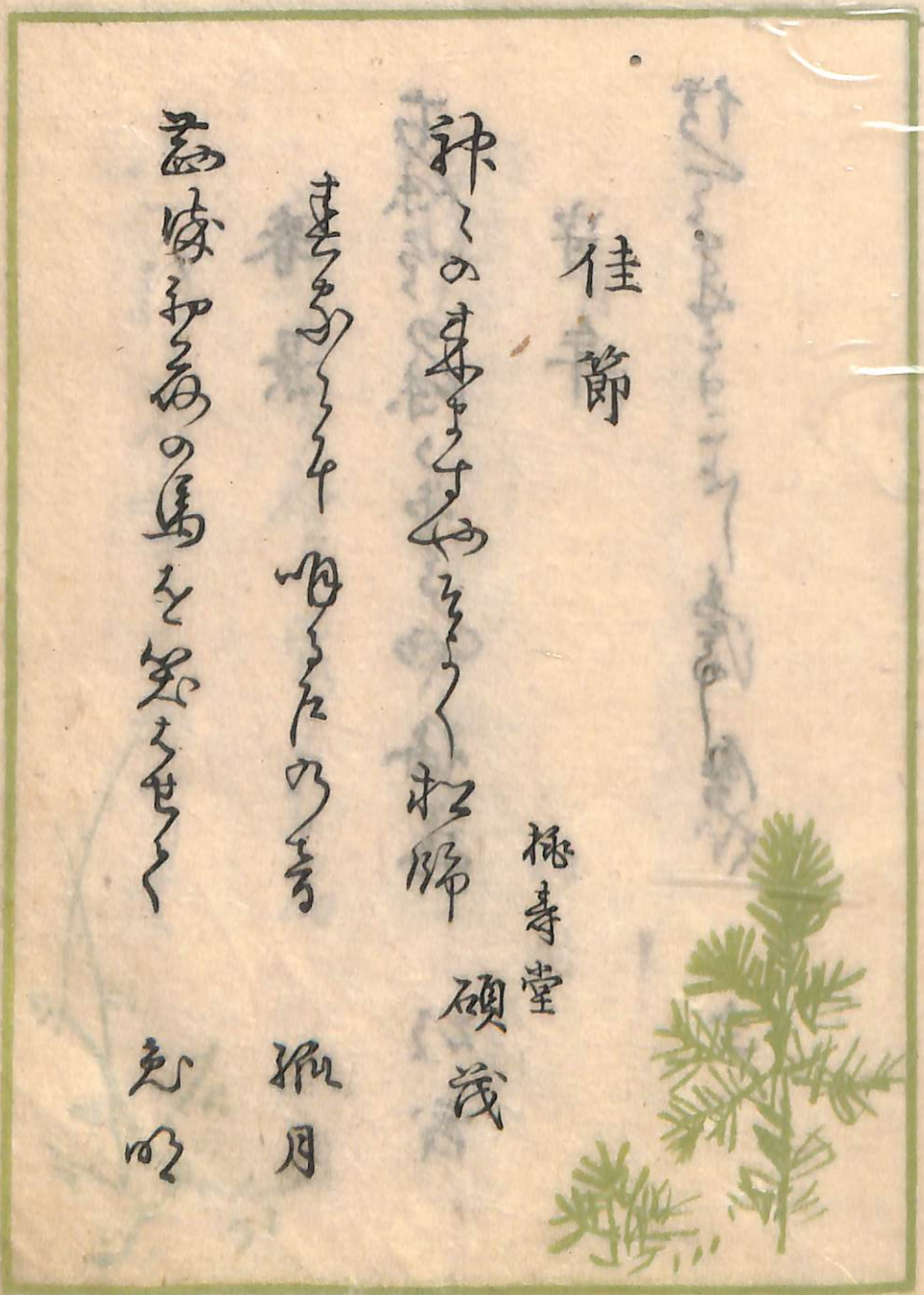
碩茂

まをよみしはなをよみし

孤月

高海をよみしはなをよみし

光明



春景

古原の草のまじり梅の枝

守年

信々春の来りしを梅の枝



青陽

會程を山にみたりと春の来

松園

春の来

草も春の来りしを山にみたりと春の来

小丁程の春の来りしを山にみたりと春の来



春光

清き水の流れよなや梅香

春木

春の光に照らす梅の花

全

三始

月夜の梅やしらけ明の春

槐市

峰乃雪をまをさす打垣

孤月

春興 終年

しらけ月門子あまを梅よりけり

槐市

梅香とも待たぬをさぬ春

全

武大麻生
長水菴



微 犯

御幸有を海にせしむ我々の春

武修長
松右衛門

編 竹

あまのこゝろもあまのこゝろの日

紙 目

春興 年備

あまのこゝろもあまのこゝろの日

海 舟

あまのこゝろもあまのこゝろの日

立

華 始

初日 春の初よりさぬ君子玉

上毛茅屋
陽南舎

又 州

四方の春よりさぬひき田

紙 目

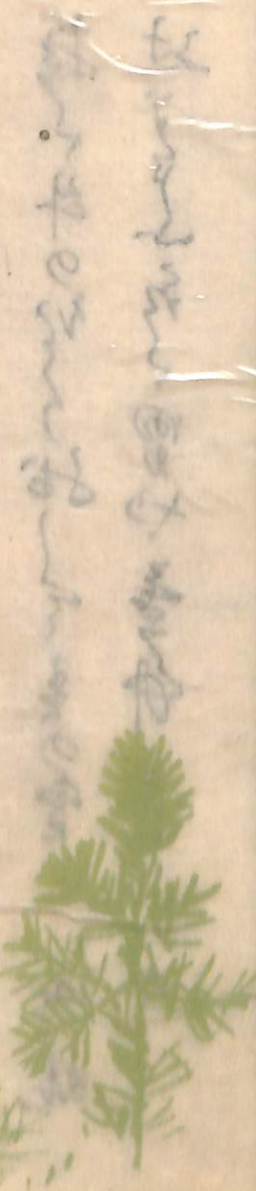
春興 太歳

あまのこゝろもあまのこゝろの日

又 州

あまのこゝろもあまのこゝろの日

立



花の影をみれば
花の影をみれば

孟春 入歳

之れや 澄みぬる 又ほのろす

いほし 一しうそまの 鄙より

春興 茶月

接ぐ牛の ぬるし ぬるし まの 空

近よふ ぬるし ぬるし ぬるし ぬるし

武拙木

翠東菴

壽曉

孤月

壽曉

五

花晨

皆人の ぬるし ぬるし ぬるし ぬるし

山も ぬるし ぬるし ぬるし ぬるし

春興 曆末

常世 ぬるし ぬるし ぬるし ぬるし

常世 ぬるし ぬるし ぬるし ぬるし

武王子

山多橋

寛香

孤月

寛香

五



元旦

春末

武吉原

三津堂

提灯もけさくゆりやうす

月人

ゆき子春の酔きり波

酒目

春興 季冬

様も只一枝ゆきよほむひらり

月人

ゆき子のゆきくえのゆきよほむひらり

全

歳旦載暮春興

萬葉の袖もたると我家の

和浦

栞上れ帯持ちやゆき子み

言所をふさけと存する萬葉

不覺ちりゆき子へあうと男

和賀

う鳥子みのかを踏むおに

く那やゆきころのくみ付

美き四方のけききやゆきの春

和賀

遠坂塚
月近亭



まきのくや橋の上の杖のたて

聲も利残さぬくまはさき

いそぎくもつと起てう筆如

梅さくや桐屋ハ何うひら言

いちうひらう遠くうらうのこ

そ白くまぐお上さきよ海らま

ぬくまをくおまきわくく山田の

昔も此のすまひおとらま

ワタしとや七種のりもぬら

立
心子母

立
孝之

立
瑞雅

そくくなさしけま妻のまの

後てまおのちしやのま

新りのさくまこくちや門の

妻母し旅安し岩とやま

夜物とおれしうけまとの

明るく小風交るそまう

言ふまらうりと毎のおけ

只の修繕を戻るやまの

福壽心とらぬるまうま

立
丘雅

立
兼友

立
妻亦

聖の抄や扱さく程よほ存すよ
 用と扱くてもはかぬやうの布
 糸のたひまは、結のくれらま
 様さやふし子あさく日いさひ
 き後まら風もひらやちあひ
 山ハをさそりてきり一唱の春
 秋の夢うほそりてまねの名跡が
 登城よまにそあそや海女の目
 門書よまそりてきりて報されつ
三川集
 秋鷗

海のまやうしりあそあそ
 すまらひんあひまきくせう

さす枝の様もひらけとやりか
浪系連
 毛持

三つ目よりわらうる帯うた

鳥さす山雲ややうとくられぬ

とまのまら移りたるやまの風
山石

人のまらそりてきりまの風

野くとまらまらとくはるれ里

あまの川四方より流るる川の妻 五 山

人の妻も福りといへる妻は

いろしとておまのさむいおまの妻

難き事も美事のおまの解心 五 雲河

うすくぬく世の世の世の世の世

くまのくまのくまのくまのくま

遠きやまを流るる水 五 其時

地よりぬく水はくまのくまのくま

もろい水はくまのくまのくまのくま

雲の代を明とするれくまのくま 五 業行

くまのくまのくまのくまのくま

あまの川をくまのくまのくまのくま

あまの川をくまのくまのくまのくま 甲ま辰 山

けしきもくまのくまのくまのくま

あまの川をくまのくまのくまのくま

あまの川をくまのくまのくまのくま 五番 山

あまの川をくまのくまのくまのくま

高き山もやまの峰あり口車

五

元とや鷹のやう那をのえ

後九

梅さくや花のおもひうきく

くつのもも程とあつらふ

上西条

えりもこころしとあつらふ

後

等閑やこころとあつらふ

持おすは程もも年のあつら

上西条

えりもや山家人の志ゆき

雄

のさかしくやとあつらふ

さつととあつらふ

あ梅子もあつらふ

郁

あさやうとあつらふ

まをるも伊勢物あつらふ

思ひもあつらふ

如

ひら秋すもあつらふ

三の山の夢もあつらふ

上西条

あやもあつらふ

風

あやもあつらふ

由らむやうに思ふがも一妻

初より三つとて五ととも

類なる存よの思ひ一難の考

拾得子羽織をそぬふとの布

下総佐々妻

清くも美しきしゆふも

種篁

妻はるる後心くせける人

襟のぬきたる人たりまの白

五世田

はるの室清くも思ふの思ひ

張弓

時のもくくは清くも美し

門あひぬりも拾りたまは

妻むりやまらうりぬき

拾弓

初人のそ初めやうか

櫂のきりゆきと遠き

ふくまはく思ひけさの妻

五世井
新芝

井の如く思ひ鳥もさ

尻馬はゆきまきと

城さかすれは思ひ

五
新風

そ閑きや巫女の袖より鈴の音
ふ井一夜とて更いそよのまの串

五 鈴状

とつもいそよ山さうら又たのりなみ
きやあのおまもあまの影の中

五 和 鈴呂

あまをよハおきとらりまきの風
あまのま袖乃井やまの影

そのまよはき揺りうらめれま
まてんて物まきりやまの布

五 和 鈴 徒南

まらぬお母流を唱えり 梅を
梅よりたよなきをいれ目お心

梅よりたよなきをいれ目お心
ふらふらよえまて門のあけりぬ

とる海はきりんの舟の機傍に
言れたまや向あさ 鈴りうゆ

あまを揺りまきりぬらぬのそ
あまを揺りまきりぬらぬのそ

あまを揺りまきりぬらぬのそ
あまを揺りまきりぬらぬのそ

あまを揺りまきりぬらぬのそ
あまを揺りまきりぬらぬのそ

あまを揺りまきりぬらぬのそ
あまを揺りまきりぬらぬのそ

新風の伊勢くしきまゝらはしめ 日徳山 路の

まよぬれそまやそ梅も花さ

大ゆり糸のさるよえうてまぬ

隣のをむふ世の梅より 五 曾秋

西ふきの梅よりいひき我ふ

聖にけりけしきをぬくそふきの梅

ふそらうのさうの舟をうり 武蔵山八林 千の意

又たふも月をもちく梅えん

帝承よのちもく魚のしぬる

るもちくむとらう 梅の世 船井

よ我よりてこれ 我ふもあう

人走しうすとの海をうらう

又はのまゆわらう 五 船水

松よゆす 海をうらう

砕砕のちや干やはるふのま

ソ子つや 葉よ 葉 船水

子を思ふ 船子 せし と 梅 の ま

解つ ま れ ゆ や 葉 の 初 意 と ら

市井もろくや栲の夕夕夕 素山 士終

栲きくや一栲くくくの 申候

雲戸をそ 常りくも 病りくも

芝相子の千くくまよえくつ 娘のあひ 武持貴 子休

去よまき 清くまそ 我やまきあひ

病りくもまきあひぬ 海きくま 三 極変

積ひきくまをくくまふくくま 母候

風をきくく 出れぬ 栲まきくま

世間さくや 事候一 通る 畠乃

くくますまきあひを たり 海一 去 甲井貴 去宵

えりあすまきいりまきく 湖の音 全半世 山牛

そく 那る 門の小川やまき 丸目

和をさくや 程心を あり 河さく

栲くれくあのおまきも 恙あま 江多日 佳境

陰板の用候 へても 立ぬひが

あまあま 足さくく せく ち 狂氣

全 里幸

上敷子志うさきや梅りお
 極目ハ人よ遠つさうとありお
 我家のくせも遠れらおさうり
 とさしておもれすお梅の白ひら
 持るおようさきとさきや海老の目
 白き毛のふさるもろれらお梅
 足怪しあさきや妻れ海の中
 是くさる遠おの燈や沖の母
 和島海くぬよ明くき舞は
 上敷
 梅りお
 一丸

梅さくやひつさき笑の持心
 納由子こさきれ梅やすさきひ
 ほのうらと梅産て後おりお
 元つさき六足海すさきや妻山
 けさきやすらうさとさきふ小ね愛
 座よさき物よ先照おりうさ
 丈高よ梅の東うらうらさき
 妻ゆきまやおの隈おの隈
 下総結株
 梅りお
 一丸

大あひしはあまの川一山あまの

泉源の山

手控の山よりあまのきよの池

かきくまはうまをくまのつゆまの目

きよやきよの軽率の自ふ家

あうまをひきまらぬのゆきを

あまの先づあまのあまのあま

あまのあまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあまのあま

徳今虎 雅流

笑

松とゆ

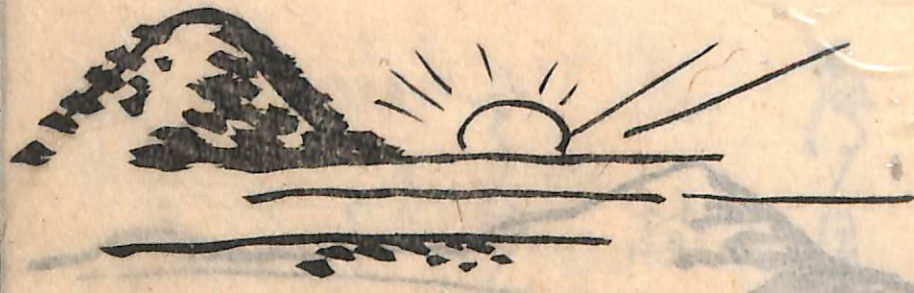
只の日

あま

日梅

あま





長閑さの

うきあつまる

うきあつまる

土橋 高家 宗輝
のうきあつまる

磨子 田の

出立

しん



五橋 高家 宗輝

花月堂 宗輝





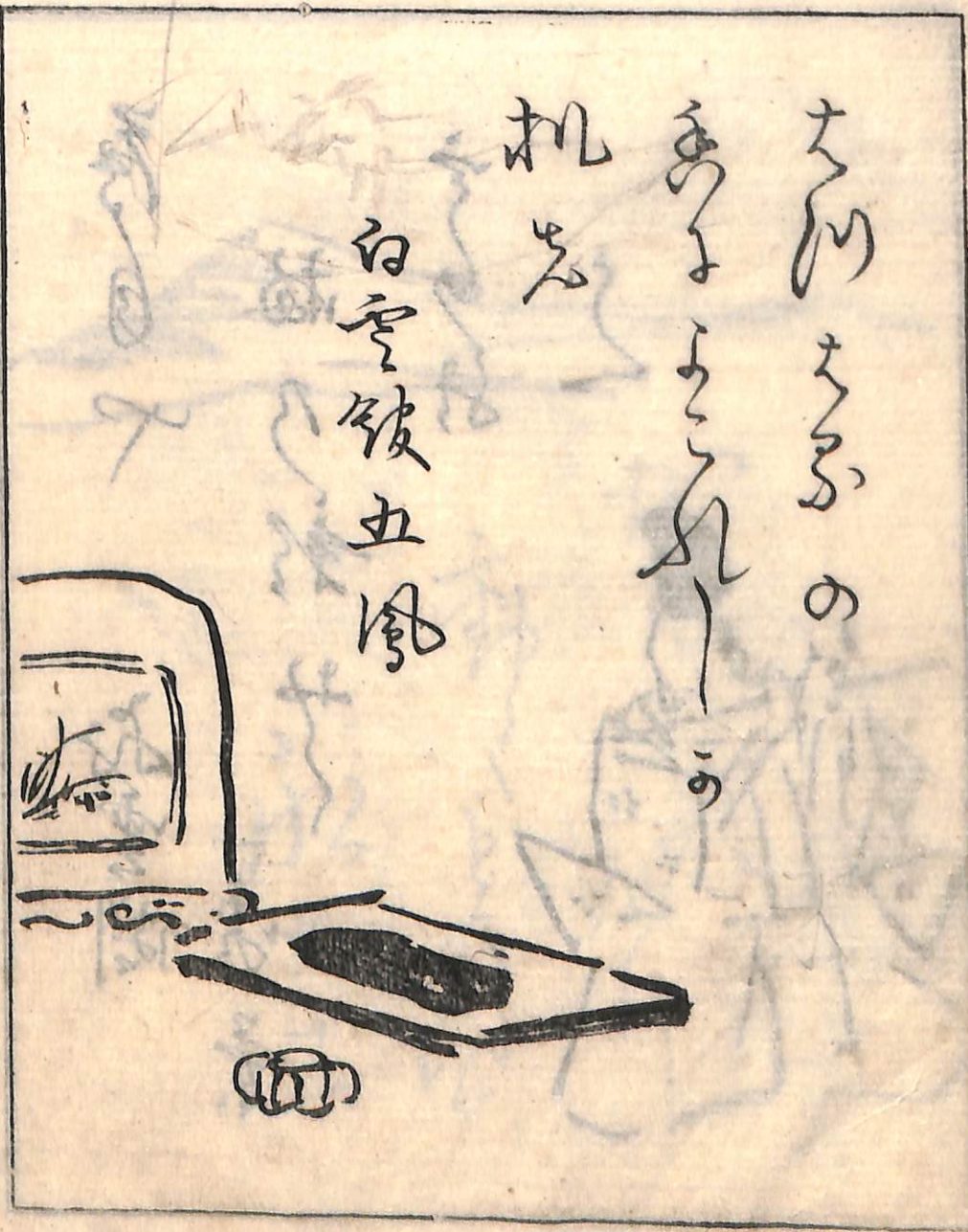
折舟亭

河津

柳

柳

竹目窓



大川

舟

机

白雪

五風



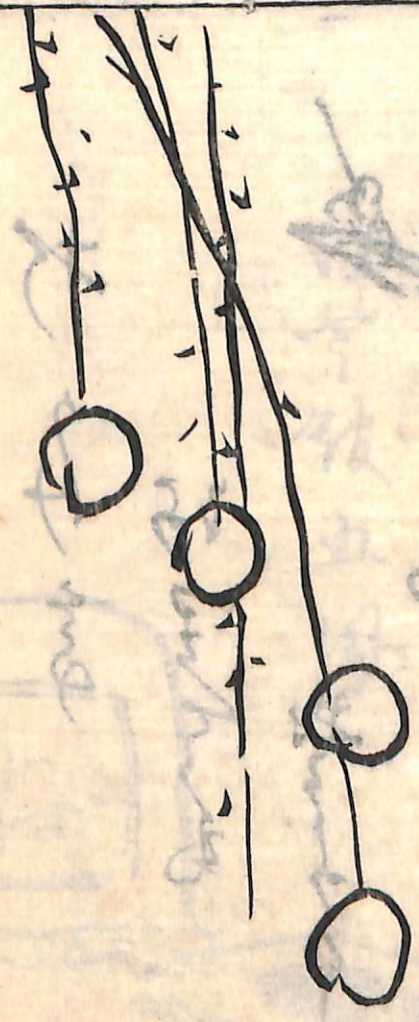
物由

さうさう

清き水

活のきき

秋のふゆの目



物由
さうさう

出さうさう



うすまじり

うんちまじり

おんちまじり

解替間

本解



後三田里旭

江戸女

江戸女

江戸女

江戸女



孫くすも

しれい

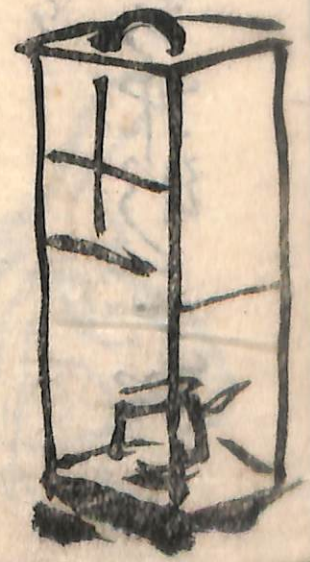
たらの

ゆれ

ま

出文着

振書



いさ

の

ふ

ま

物

松令書波女



衣

あつちやう

あつちやう

あつちやう

あつちやう

あつちやう



あつちやう

あつちやう

あつちやう

あつちやう



大園寺里山

常の

海

いんげん

うま

ちりし

うま



門
まらよ
いんげん
うま

まらん
うま

琴照女



送勇楼

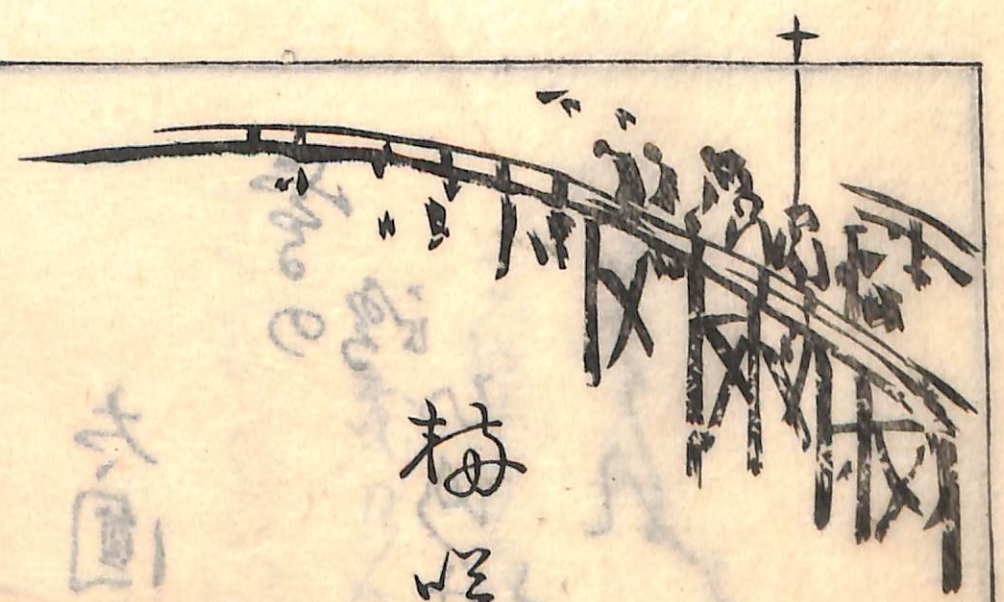
夜寮女

梅 ~~~~~

~~~~~

~~~~~

木回廊



初車屋

~~~~~

~~~~~

~~~~~

日向楼

桃葉女



又々々々々々

山

鳥

一

茶の

の

山

一

山

山

山



山

山

山

山

山

山





茶の湯のくわ

一  
日

ちきり

極品

茶目



茶

あつや

のしの押

ゆきー木も

茶目

在居華

湖石





知足第一樂

一之巻 江戸

事... 子

標



醉六指棠丘

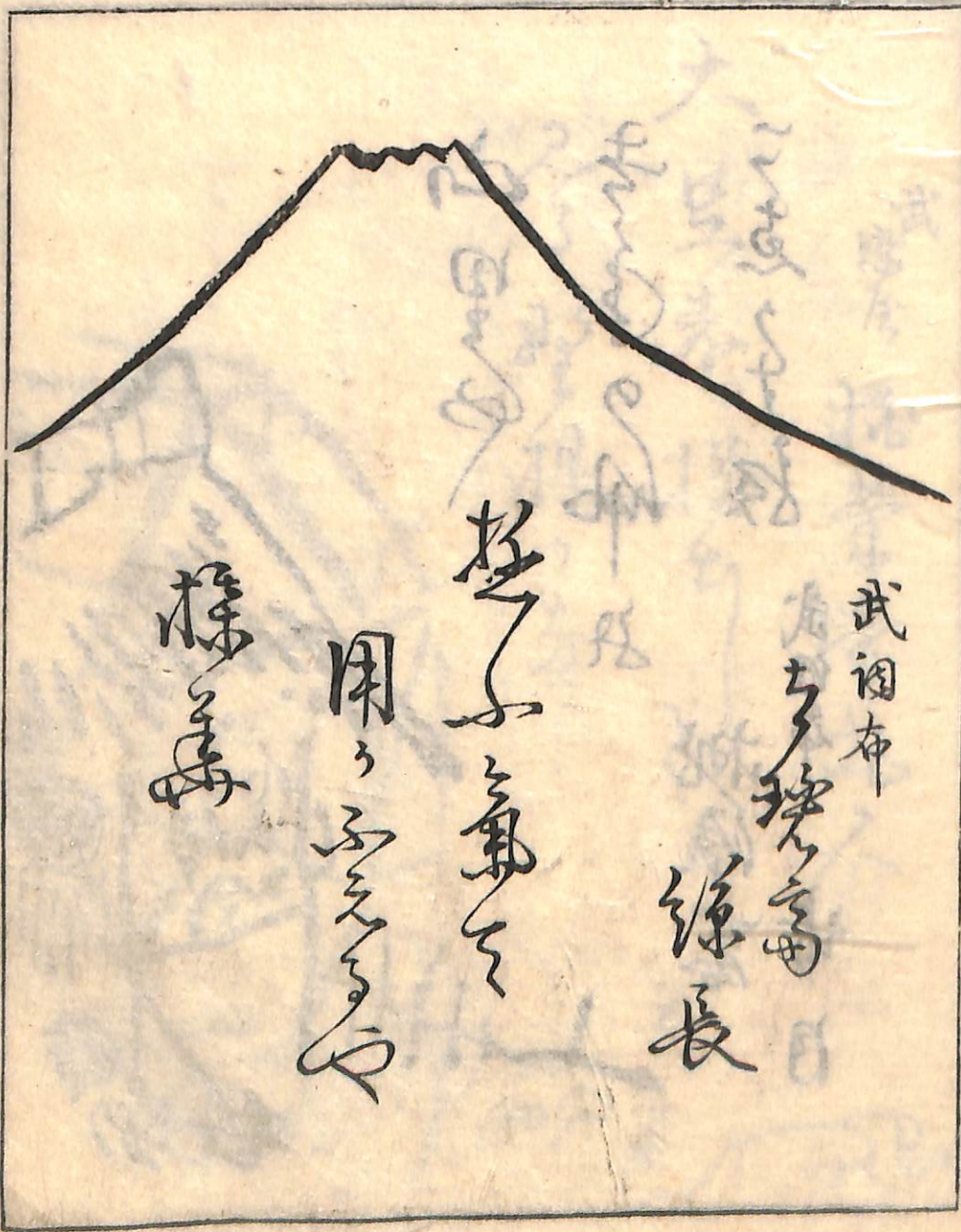
酒の巻

要... 志ん、

志ん、

梅雲

福



武田布

ちり珠の富

線長

松子氣

用ろふ

様

左邊の  
狐渡



柳を

考の海

ちりま

け

山田也

寺の御子

いさぎよし

批源家

武田中

歩月

光田中



大馬を控ゆる

武隆 松紫孝丸

よくぞ謀る





元日空をせり

書まは

い

下野

城名

完白

分と梅

書まは

のく字

武王

書まは

玉桂

神杵をせり

武王

書まは

玉桂

書まは

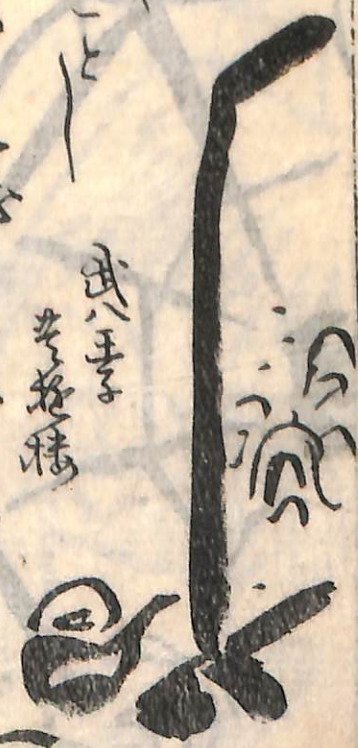
旅まをせり

梅

武王

書まは

玉桂



三

たきくちりぬ

雪駄のおとら

うめ子集

武延み

子月集

里桂



老うらり

かきくちり

柳

老川

厚身

井多傳子

たきくちり

五

支月



一本し 是さく  
多子 栲やきぬ 取まき名  
是要

喜ゆゆや ぬて 重厚所  
帆くそ 舟のり 何者

鳴くくのそ 縁多敷 移世  
あつそ 栲や 一英

去たさふ

そ者の門に

ゆきさふ

あふさふ

うさすのさや

うさすのさや

何許の

栲や 栲のさつた母り



おまき

風蓋

密堂

全 田舎

仙路

野々

全下町

野々



梅さし

庭多持

川通

おしな 一房

松風をひきよの

春さき おき 目をみる

巻つゝ、遠路乃 武田

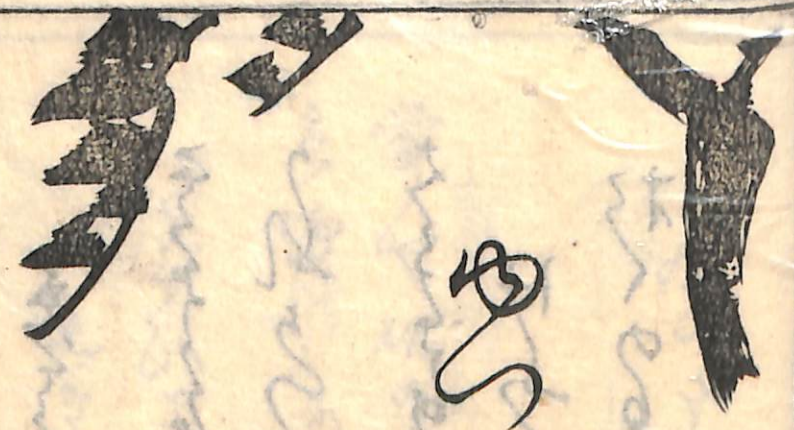
さや おき 月新

あさき

山垣のほま

うしのま

秋之庵おま



細つ折るる

幸土浦達

綴り

五月の十日 春の節 晴

うれうれ

干子

たろろ

春の文

切糸

けろろ

おくの日記



あつあつ

まき

全巻

あま

銭

あや

あや

あや

あや

あや

あや







田の子 春の耕  
らぬま  
と羅國

ののの  
金鳥

小多く 妙子 田舎令

ゆきまき  
はげ可 抗板

思汗のまは ちんちん

まの ねん

從好國

糖斗



持て

か  
か

たやまらよなりか

左一筆

二世 橋あり

ゆつらりと和みの  
さすや 年俵

日君の

一陽

層々たるもゆらぬ  
梅の月夜うら

言の葉

一泉

ひとしほひまを  
移すや 山田の

山名

一粒

美人の志の女  
あや おれら

月夜名

一得

あはれてあはれ  
あはれをたふさ

子守歌

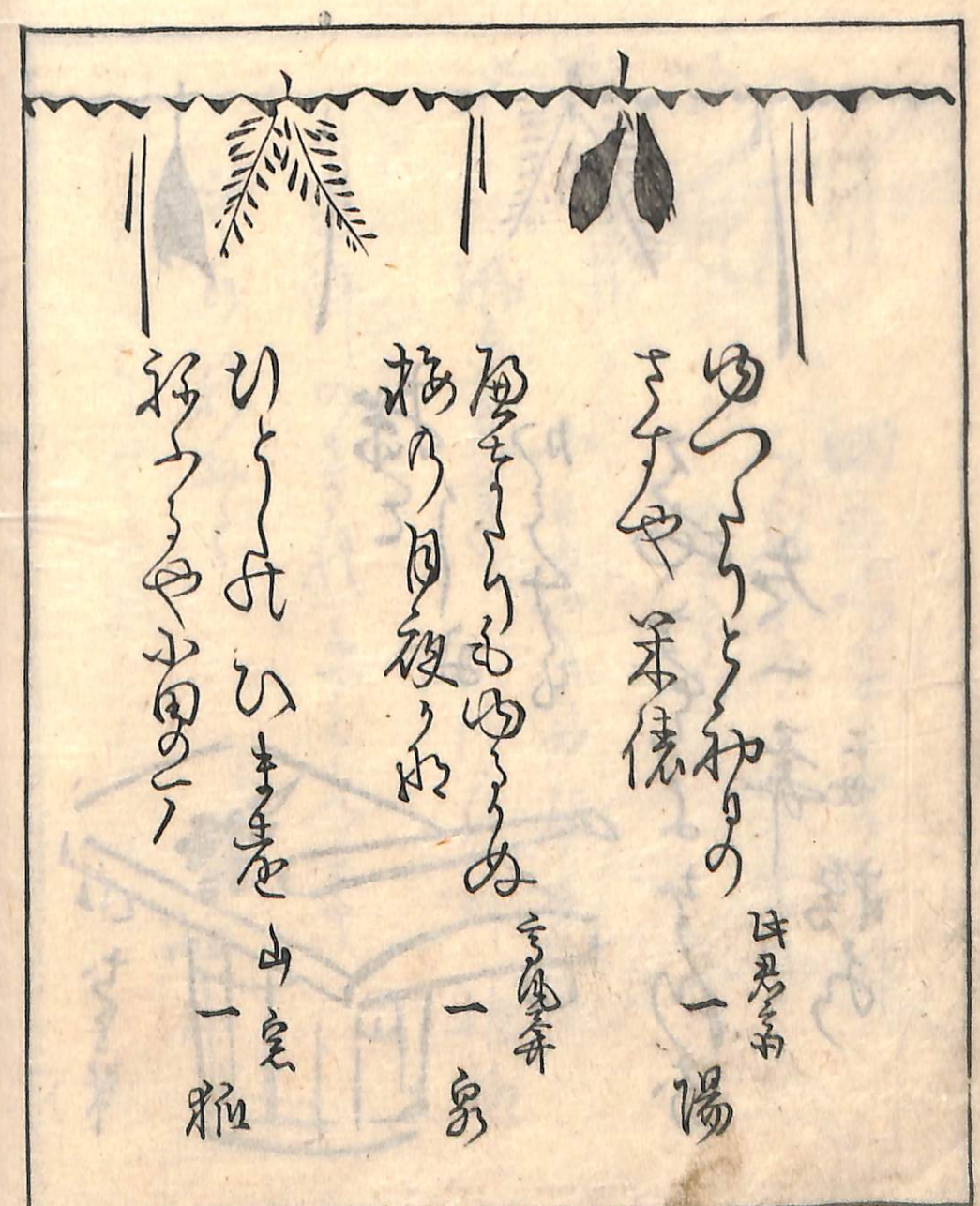
一狂

とえ一草

暖草

一番

まはるゝあはれ





誰も世々かゆき  
 命一知もみ

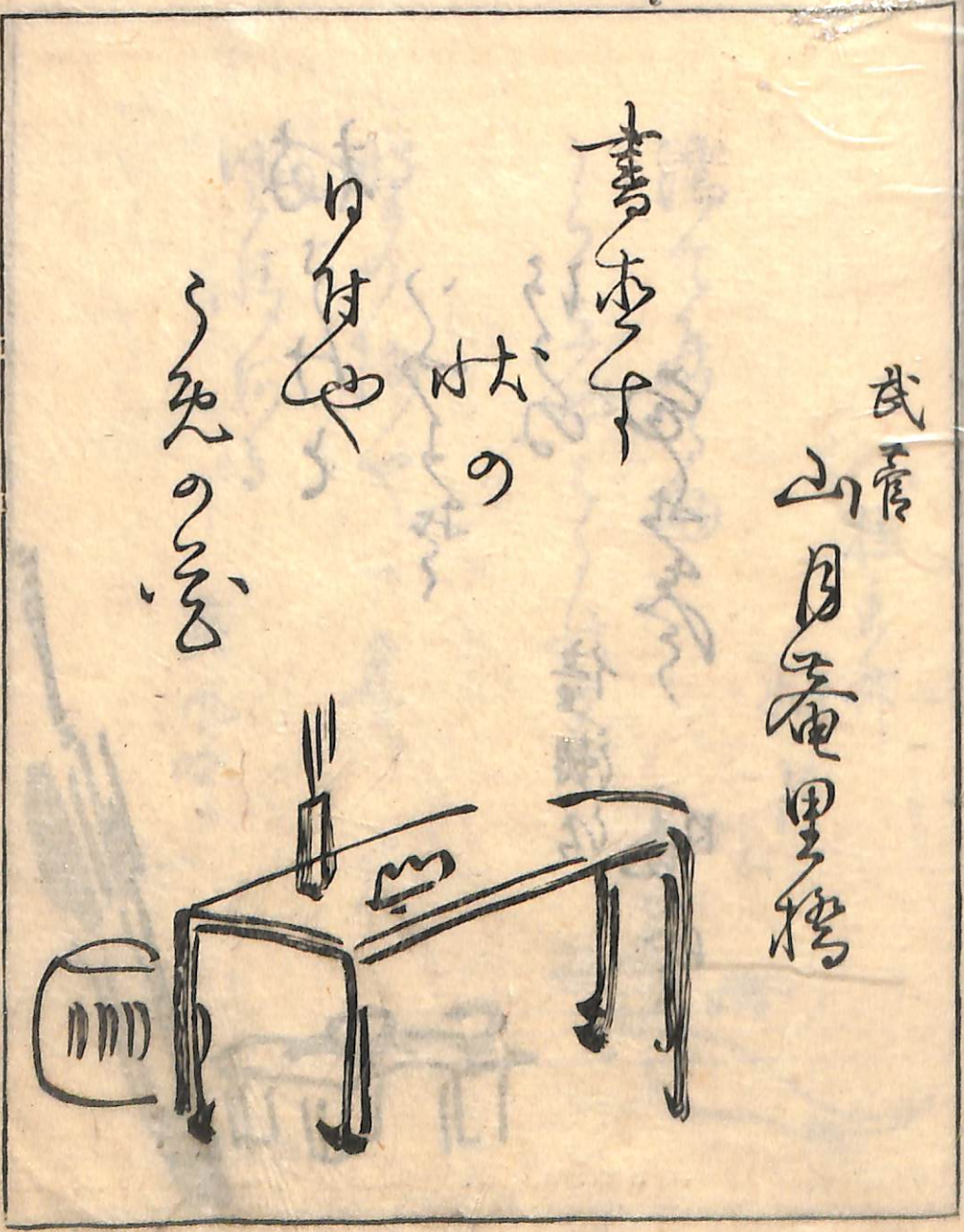
あなま  
 一物

甘きハ生るる  
 何ぞて美らしき

あなま  
 一物

居るるのぬき  
 かきりや深夜の鐘

あなま  
 一枚



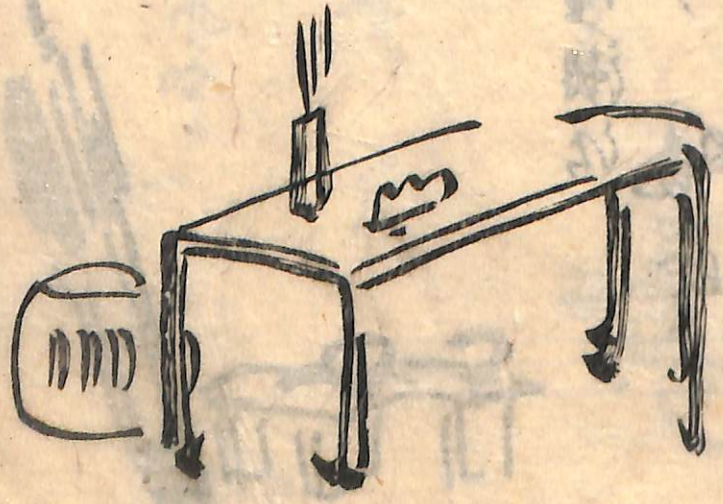
武彦  
 山月庵里稿

書

杖の

り付也

く免の



梅さけと

いづれぞ

ほろめ

信湖江

白牡丹

為齋



桂多林  
如月

清々たる物

うらまゆるもの



那の梅や一本

風情何ぞ

英風冬一册

くまのこ

くまのこ

くまのこ

梅曉

小糸

えんひ

ひん

ひん

鯉

ま

ま

月

月

山

松



舟人の舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟



玉海

言

横川

植木

裁多板  
妻松



妻風のたむ

多うも  
笛ふり

甲斐守

左衛門守徳仙

梅

とそり

新ぬき

きりぎりす

のり

お笑

きりぎりす

お笑

左巻

里月

孤松

二月



春

さくら

海

きりぎりす

上巻

のり

さくら

五

きりぎりす

春

お笑

玉の春

又

甲子

千

お笑



花のたふら

杯三幸

芳水

朝さるるも

物れー



お金田

お穀子

雛扇

海多本や

たじあさひの

かすね朝





五女山

極楽堂

松尾山

晴河

喜北月

一羽ふりもの

極楽堂

都母

ふとや喜北月

おききき

武吉

室籠更

たや持子

りり

極江

あつたま



持子

信勝山達

かきき

丁

阿房

松尾山

松尾山

信勝山達

阿房

松尾山

松尾山

松尾山

松尾山

松尾山

松尾山

松尾山



杜坡もたさほく待や

ひげ

全達

赤目

空めうらやみうらや

山 詩

けいりや

うらやまのうらやま

言 成



らりしや

杜

うらやまのうらやま

けいり 席

まがれきりや

けいり

ぬまばら

けいり

うらやまのうらやま

けいり

うらやまのうらやま

けいり

山



清人を何ぞや

子つむ山あつ那

一露坊 才女友

正月のちりや

海土う袂うも

對月

雪よ吹雪も

白雲

樵女

雪すきこころ那



門雪也

人も

葉も

井

こころ

雪

雪も

雪柳女



好子

仕

形

好

好

好



好

好

好

好

好

好

好

好

好

好



しききぬ

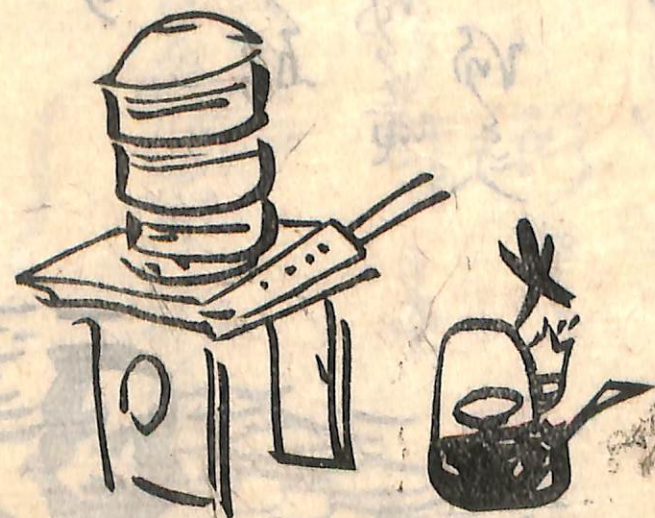
障の聲や

藤の葉

武彦彦

秋の空

緑の葉



武彦彦

秋の空

中柱

秋の空

いぬのうら

さくら

白のうら

武彦彦

秋の空

袖の風

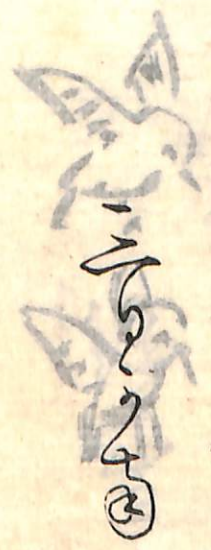
ゆりや

新...  
...

武...  
...

元...

...



...



物...

元...

...

...

...

...

...

...

...



...

梅子

甲府達

ひら

のひの

あき

梅

侍

くさくさ

ささ

梅

木

お



山

右衛門

山

山

山

山



日まのれふまの

上徳服

水の浮る

松風

清

清の跡

上野の松

うさね

武田

信濃松

くらま

春の

春の

梅



常の園高の

日松

きりり

い

ま

甲

のうら

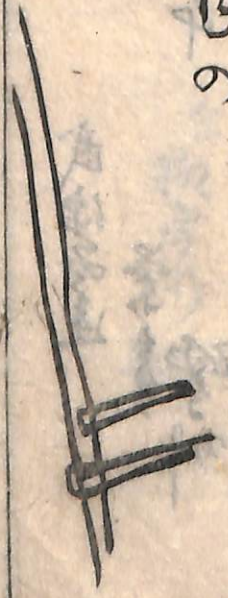
蜀人

三井

松

松

おあり





武徳天皇

御宇

御製

去るる年  
子田にあはれ梅子

持也の如

るる方小  
白七

全  
旭彦  
知相

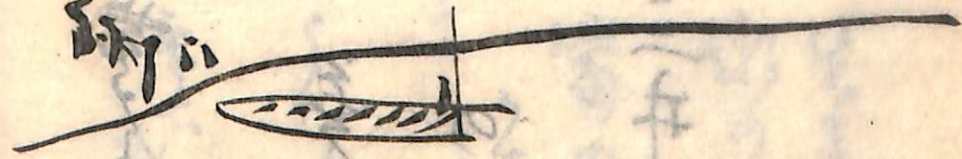
通

全大

中  
多  
月彦

此  
梅  
如  
若任

所ハ



白梅の多き山

か  
芽  
芽  
芽

全  
彦  
彦  
彦  
可  
如  
女

子孫  
傳  
を  
も  
つ  
れ  
全  
大  
彦

唐  
之  
子  
梅  
也  
全  
大  
彦  
彦  
彦  
彦

朝  
毒  
子  
相  
之  
云  
彦  
彦

如  
梅  
也  
全  
大  
彦  
彦  
彦  
彦  
二



何々々々

鳥々

くま

門のね

河東

一書



江の柳

ねむ

あま

くま

くま

あま

武原谷柳下連

中斎月夜



新開

武蔵川  
深之屋

芳隆

梅もや過り

袖平

小半時

松平水邊  
藤原屋

松源亭車牛

精ひき牛

甘多之

も

あまのり



梅屋



人往まの

くねくね

あまの

あまの

ときら我日きし花の

全 ときら 遠泉

和室や

和室 全 通 ね ね ね ね

十神の神

あまの

の

あまの



清き水も  
 流るる  
 岩の隙  
 山崎の  
 清川  
 松の  
 白く  
 五  
 五  
 五



五  
 松崎  
 崎  
 五  
 五  
 五



五  
 五  
 五  
 五

五  
 五  
 五  
 五

五  
 五  
 五  
 五

おもしろも

おもしろも  
連

石の甘三の何〜の何

七  
存  
子  
東

何〜の何〜

何〜の何〜

五  
何〜

何〜の何〜

何〜の何〜

五

何〜



えの何〜

何〜

五

全連

福有

何〜の何〜

五  
何〜

何〜の何〜

五

何〜

何〜の何〜





水水

うき人のすれまゝ

松竹

長秋

さるすゝめ

全

卯米

はつちをばのえ

五牙

梅子

あまのこ

全

あまのこ

梅子のすゝめ

梅子

あまのこ

全連

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

文旦

あまのこ

全

あまのこ

あまのこ

あまのこ

全

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ



今更しくそ種

しめりて種

こころいふ

つれづれ

物とて

こころいふ

机

松竹梅

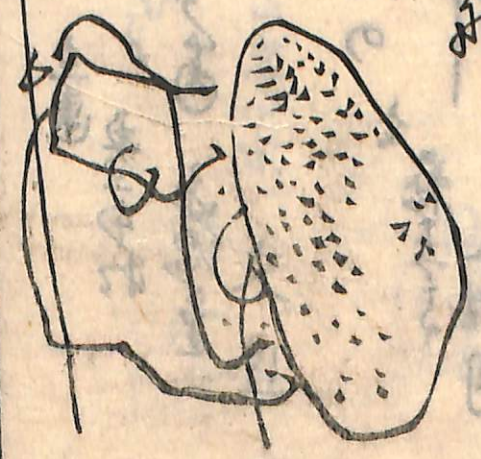
用

全

立

柳

歌



梅

こころいふ

こころいふ

全連

立

山

こころいふ

浮世

二

松

立

こころいふ

岩





藤の木の白ふの如んや  
まきれんを 七森 房智文の如

梅くさくさめ

二月の如く如 全信古

り枝のき

静ぬぬの針の 全

ほろろの如く くら



もろろの如く

ゆらゆら

もろろの如く ちの如く

ゆらゆら

もろろ

思ひ

もろろ

楽拉科

暮ら

おと梅の如く ちの如く

楽拉科 雲の如

舟車

けいけい

小舟

仙舟

極楽

初更

天の事

水の事

春

おのり

批中

まき

向

柳

秋

柳系



常と我と

五連

舟

一生

下流

川の

流

舟

舟

舟

舟

舟



ツルギ

全連

三井

春の駒の上

南の方  
杖

口

春の駒の上

袋の方  
三井

春柳や家の

早を  
吐笑

春柳や家の

林の葉をたふし  
ゆきふり

吐笑

全連  
お春

千白

川

お春

欠す春千

柳月令文窓



七巻目

扇夏

梅屋くすねる

子殿のちををうか

風もふけ

くふのゆき

落るゆき

哺言猿目

口ずくす

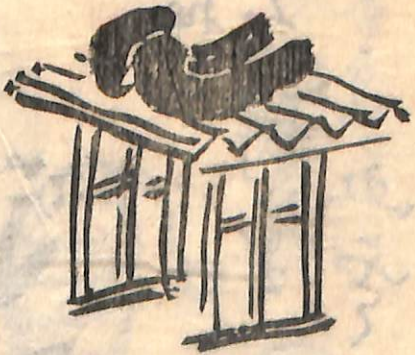
ゆきゆきゆき

白梅

山

雪のゆき

梅屋くすねる  
風もふけ  
くふのゆき  
落るゆき



武田文 幽篁窓白友

いろは

と

字

武押立

吉

武押立

吉

五



拾

石

極

れ

梅



河

金

堂

新

谷

襦袢

とて、と 糎の

白糸

星崎墨雪水



傘提とぬきり

くわし 幸女雨

流之海菜の月形 甲斐境

梅子

長石の 山をたどり

通る

有志



山さやや 毒とて 子

とて ちり

志海

下野信

長之

長き子

讀存枝

傾言

身古

~~~~~

~~~~~

通

~~~~~



~~~~~



~~~~~

柳

~~~~~

酒山

~~~~~

~~~~~

梅更

~~~~~

我

~~~~~

坊程

柳

雪の一角

至池町

白梨

思ひ

のうらみ

里祥

頑鳥

はらばら

樹の中もゆらゆら

鳥物 孝鳥

知らぬ



祇巻金風堂

しんじゆ

あま

羽織

たか

しんじゆ





野の杖

定女之杖

神女浮了

一りの杖

漣亭如泡



青柳中

牛たけりてきる男

又燈舟如流

若くはもきしる

うたよ

舟一人

旭の障

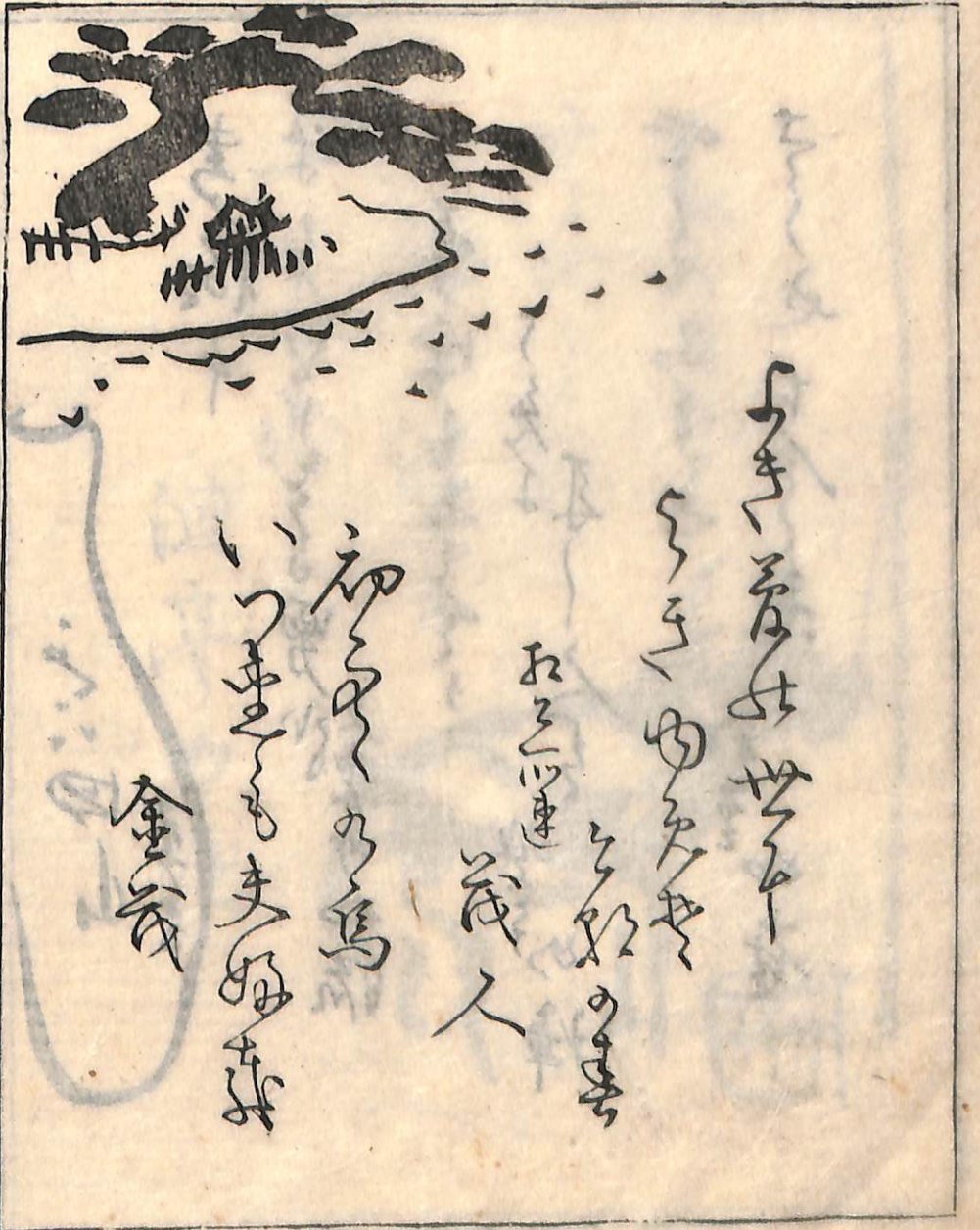
常くふき進

松堂

さく也古今来

如雀





ふきくさる女世々

うきうきゆきや

うきうき

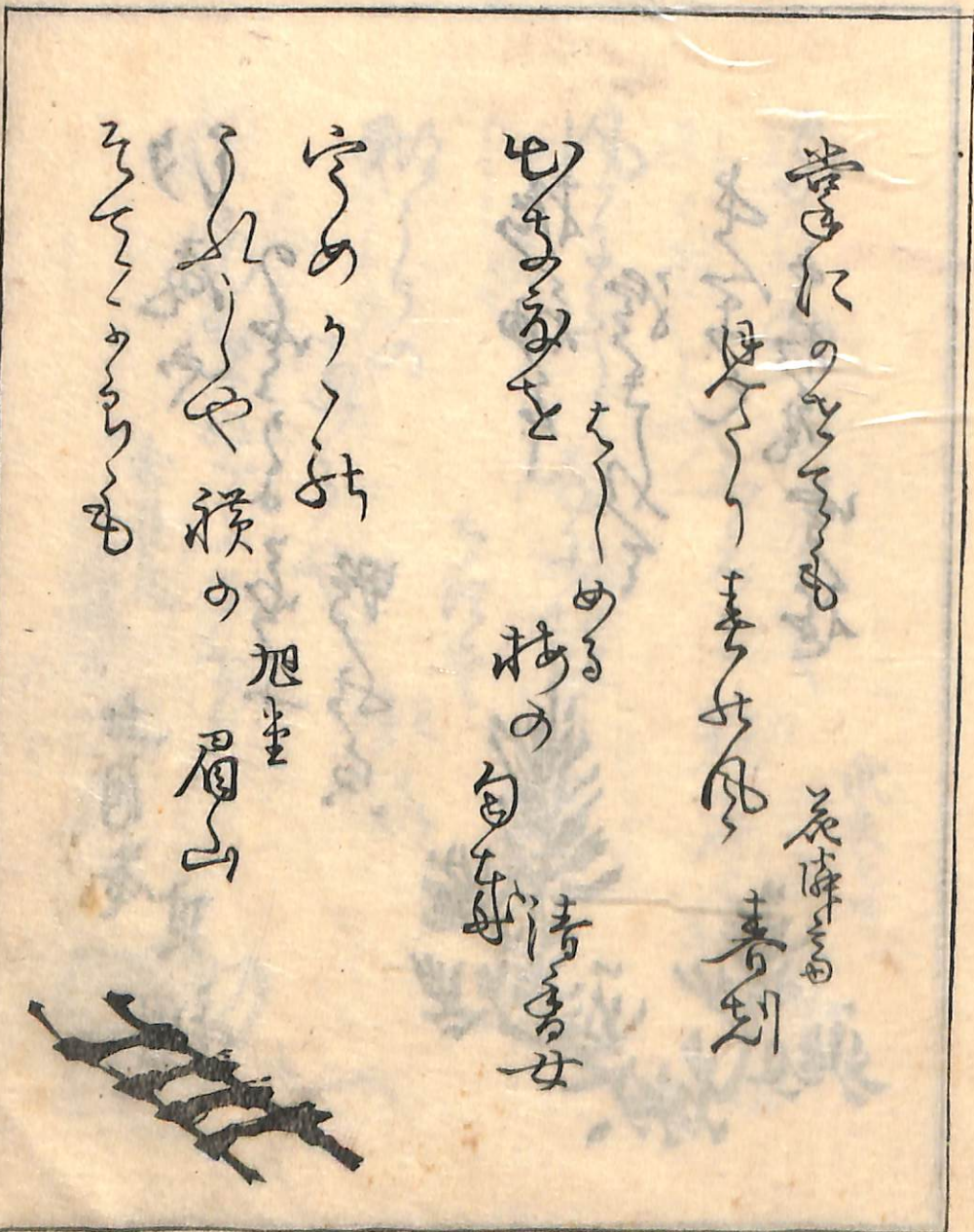
おとこ

後人

初めうき鳥

うきうきもまゆみ

金家



昔のうき鳥

長崎

うきうきうき鳥 春刻

うきうき

うきうき 梅の 白鳥 清書

うきうき

旭堂

うきうき 櫻の 眉山

うきうき



沙尾や

のささるるささ

野水魚

五日菴

其調

振神々

浪きりりり

牛ふりり

雪接



赤くも

子えり 難者 椽 吟目

武夫之口

五五

風まよふ 向山 起る 雲

ちげき

まきりり

新りの 通るや 起る

あをぬるるささ

五日菴

中夜更 踊る





梅のさき

さきさき

さきさき 柳糸を四支

刺息 ちんちん牛の持起

柳糸 千支

ちんちんや

ちんちん 柳糸 柳糸 柳糸 柳糸 柳糸 柳糸



武王考述

法月堂

万文のさき

柳糸

免奉

柳糸の

柳糸の 柳糸の

便解堂

柳糸

柳糸

柳糸

琴和

柳糸



浪舟の歌

長竹水連  
南島松奴

野川の流

春水  
春月  
虚白

いさざれ

春水  
春月  
虚白  
松奴

おのゝ色

お好田達

ゆき

新  
春  
和

はる

春水  
春月  
虚白

いさ

浪舟の歌

長竹水連  
南島松奴



かきくみくしやく

寛のちふくも

長井町  
長月

まふくし子ふく

武吉

くくくみく

玉子

抄

長月

長月

橋もくしやく

抄



三巻の酒の清

初り

芳

抄

抄

以や風抄

抄

子



高富の

えい

えい

えい

えい

善那飯

掌枝



梅の、赤い花は思ふ

梅の、赤い花

奇縁

えい

えい

石斛

えい

杖とえい

朝のゆらぎのしほ

さゆ舟の

行旅の

醒醒

阿の千三

侍子や

暁露の

千里

よの國西

あまの人の

新しき

中宿を

あまの舟

河原



たらしく

あまの舟

あまの舟

遠渡を連

あまの舟

あまの舟

往還の舟

あまの舟

あまの舟

橋見

あまの舟

あまの舟

あまの舟

あまの舟

あまの舟







家のくま

海りりおきりぬ少や  
くまのくま

全連

不十

地味

昔ねるる 若くは

水

玉をま

たまきりに

寛州

きりや

きりのきり

うけもの画き  
富士の山  
くまのくま

全連

ちんちん

丸

雀のまふ

まふ

木のきり

宿まふ

午膳

まふのまふ

まふ

まふのまふ

まふ

まふのまふ



我多もや

全連

まきの  
ほふまぬ

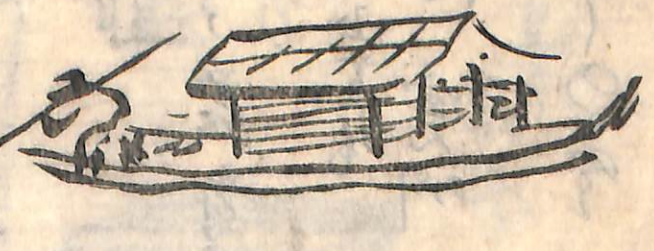
ひらみ

杉まき  
杉呂

枝

きの  
あま

布留  
友見



桜

全連

七

右秀軒

の

の

秘通

春

梅

桜

川  
露石



秘通

古くよのち

うけとくわのち

雪舟連 雪舟園

免母

さうさうわ

さうさうわ

さうさうわ

袖のしん 室書

下



帝彦のうたるる 旭窓

小野やねのしめ 梅鉢

雪舟連 雪舟園

雪舟連 雪舟園

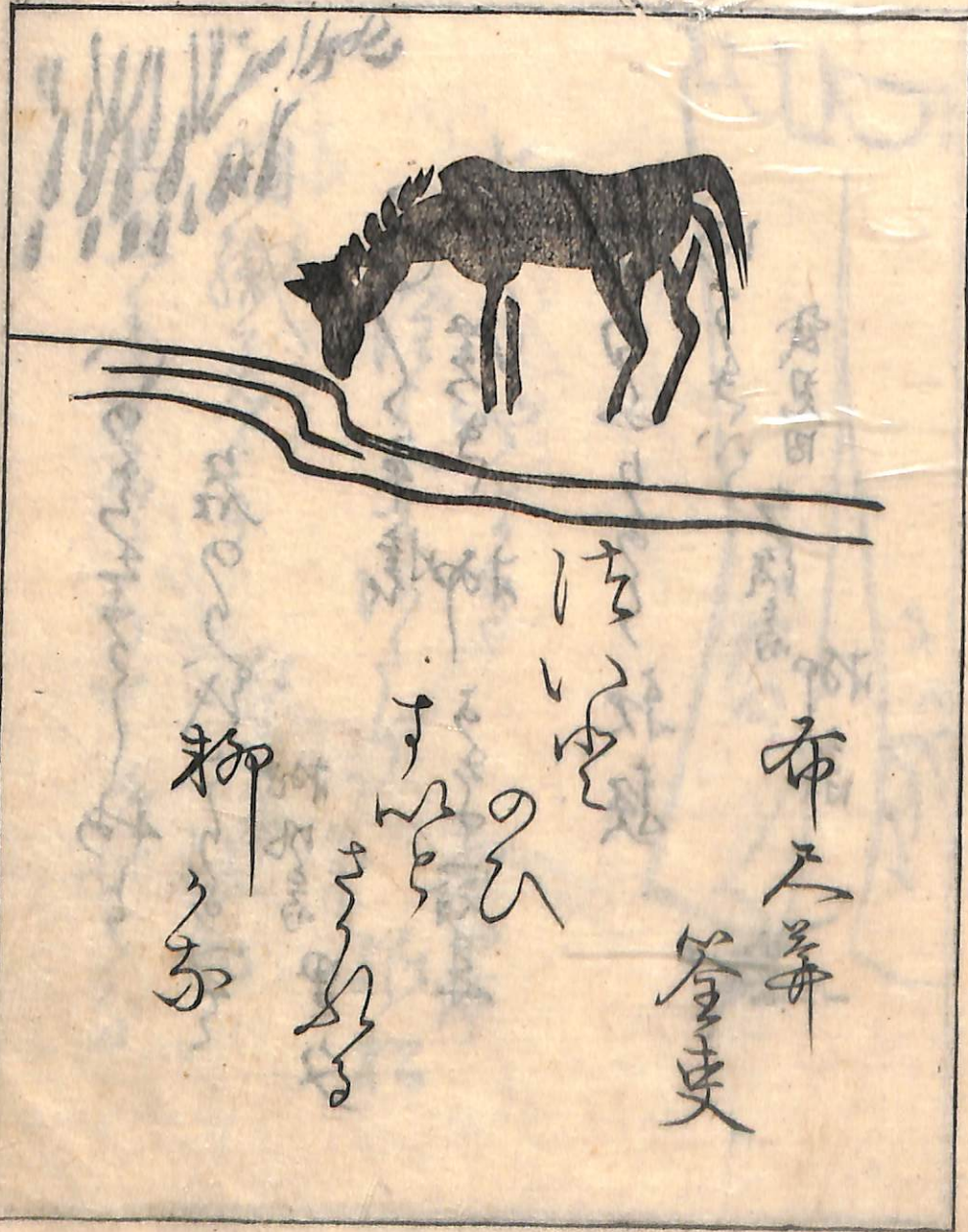
雪舟連 雪舟園

はちのうたるる

雪舟連 雪舟園

桂林







のちをまう〜梅と  
名のり紙とらあ〜

柳ゆき  
里文

手〜平懐  
後き 柳  
あき子冠ま

梅  
白ふりあ〜  
秋秋

河うきい

武思田  
七流音

柳泉



柳  
〜やまき

お白亭

信よき入河〜  
うまま 松

羽織  
〜まき

石壽斎  
梅助

大子もま〜  
〜のり



茶を奉る丸

茶を奉る丸  
茶を奉る丸

極品今其書

春女風



春女風  
極品今其書

さくらさの

神もみゆ

萬里香

孤中



去さや海と石と舟二より

桃爰

少地獄の道と涙かと去る目

あねとまは紅屋より遠の梅

葉初る加賀舟海や明の春

江春  
一 切

とさしや二日二言おたむ

舟津の堂とちや雪のさし

初るふ舞臺とちも一やせき

紙終

堂は舟とちと舟とちの如く

はさやとちとちとちも去る山

詩

世世升や降くもあつて

甲子歌

通世

梅さくらや音さくらもさくら

まうらうさくらさくらさくら

全後子

山目

好もさくら白や空のま

さくらさくらさくらさくら

高きさくらもさくらさくら

全中世

一日の梅子一りかすみ

全梅子

而我

りさくら又徳念さくら

元朝や梅一さくら

月照

梅咲ん布帛を掛く

すはさくらや梅さくら

ころさくらや梅さくら

全西河原

堂人

さくらさくらさくら

さくらさくらさくら

えりさくらさくら

全

月山

新峯のさくらさくら

ゆきさくらさくら

全



け侍りよ侍るくさくさくはさき

上中家  
双寿

堂や何よする本のらりきり

そゆ大人の小粒もゆめゆめのきり

雲むねをよめる本の通ったまに

世をまをり母老いハハハハハハ

まよひやまらしきまらしき海を所

武仁子

赤毛糸をけり侍りよつる糸

今更りよゆれややりの丸門

梅

梅ををりの世より丸トヨ子

うたわらうらうらひすや門のね

梅は子縁をまのうさくねりか

石臼の目乃つみれはうらうら

仲のうさ隣つらや空の春

この目らやもははあうら梅を

そららとて雲のうさうら大世り

家うらをん平おぬお子り

長中子達子をとねすりわが

林夕

全月し幸  
梅

全  
小女

梅

戸をたけしめりてはるるはるるはるる

多水の桶午加のうけひる

まきりや野のうけひる

残山やふり五郎のうけひる

今よりあてまきり手はるる

空のむくや子梅はるる

流澤のむくや子梅はるる

見よまはるるのうけひる

全

烟布

全

総編

全

万本

深草のうけひる

まきりや野のうけひる

かきりや野のうけひる

梅のうけひる

まきりや野のうけひる

門松のうけひる

初雪のうけひる

ゆきやふりまきり

ゆきのうけひる

全

伝枝

全

菅渡

後存  
文更

文里

梅さくらや梅の家も人さす

全 清升

春の跡うらやまのりやまはる

酒さくらや梅の家も人さす

梅さくらや梅の家も人さす

えりや梅の葉さくら門の山

素月

梅のさくらや梅の一二編

はるさくらや梅の家も人さす

梅さくらや梅の家も人さす

古探

梅さくらや梅の家も人さす

梅の葉さくらや梅の家も人さす

梅さくらや梅の家も人さす

琴糸女

梅さくらや梅の家も人さす

梅さくらや梅の家も人さす

梅さくらや梅の家も人さす

車光

梅さくらや梅の家も人さす

梅さくらや梅の家も人さす

梅さくらや梅の家も人さす

素十

梅さくらや梅の家も人さす

帯河

無名の建礼りしを 痴りりま  
甲府 傳志

梅千守りしを 夏も梅のほり  
、

るの梅やさおのほりもま  
、

鶯のほりもまのほりもま  
、

白梅の生たるを 八つくりけり  
、

すたるを 粒もや 雪千鶴の庵  
、

梅およそけり 梅梅の卯り  
、

雪千鶴のほり 山根の  
、

甲府

傳志

五

書寫

信河一ま

平渡

ち名のつむりよさたる梅を  
、

くさひまの梅くさひまの梅  
、

梅梅の梅を 梅の梅を  
、

梅梅の梅を 梅の梅を  
、

梅梅の梅を 梅の梅を  
、

梅梅の梅を 梅の梅を  
、

梅梅の梅を 梅の梅を  
、

梅梅の梅を 梅の梅を  
、

能也

是海

概貞

概谷

武吉

梅隆

五

江邊行く楠おりのく船長

全上の

船もあつてゆく船の長

板川

言はれぬらうらうらうらうらうら

言ふ事よのまゝに申す船長

全

おのれおのれおのれおのれおのれ

右帆

舟のまゝに申す船長

舟のまゝに申す船長

全書度

舟のまゝに申す船長

左帆

舟のまゝに申す船長

舟のまゝに申す船長

舟のまゝに申す船長

全

左後

舟のまゝに申す船長

舟のまゝに申す船長

全書度

舟のまゝに申す船長

右前

舟のまゝに申す船長

舟のまゝに申す船長

舟のまゝに申す船長

全書度

左我

長き如く鳥のつらる 桐の舟

大なる舟入りと異し 桐の舟

舟もくやあま性さねるつらき

舟極や舟のつらねて舟の心

舟もくやあま性さねるつらき

舟もくやあま性さねるつらき

舟もくやあま性さねるつらき

舟もくやあま性さねるつらき

舟もくやあま性さねるつらき

遠投の舟

舟 月

舟

舟 腫

舟

舟 安

杯のつらねるくはつらつらみ

くはつらつらみを待のつらつらみ

くはつらつらみを待のつらつらみ

くはつらつらみを待のつらつらみ

くはつらつらみを待のつらつらみ

くはつらつらみを待のつらつらみ

くはつらつらみを待のつらつらみ

くはつらつらみを待のつらつらみ

くはつらつらみを待のつらつらみ

舟

舟 翠

舟

舟 和

舟

和を重くも後よりかゝるる 全  
 はさしよも一なハ味の所をまき  
 志物しく、病るややしの市  
 照る日本は見えきし 安毛 全  
 昔よきしとてうしとてはるる  
 ことひたふまふぬことよのび申  
 ねとほきれもの也梅也  
 二またて花のくしくまきのま  
 和のまをくあてきくあはる

幸甚  
 英秀

千重も日月まらる 来の  
 昔のまをくあてきくあはる  
 ちくもあはれおのほをく早の  
 ちあのおははしし思ふあのお  
 二あつしよも一なハ味の所をまき  
 昔のまをくあてきくあはる  
 我とちもちひとてうしとてはるる  
 梅さくや梅根ハちき山を  
 ち思のたをぬれハ隣まをくあ

解六

言抄

あまのついでに

縁西条  
浦島屋連  
三景

まのついでに

白子

全

あまのついでに

粟橋

まのついでに

くまのついでに

吉矢田

あまのついでに

夢栖

あまのついでに

世のついでに

あまのついでに

時崎

あまのついでに

田も如も

上巻

あまのついでに

家丈

三の朝の人

借字

難日

中の人

あまのついでに

あまのついでに

三景



きねの葉うけしる。山雲赤

成夜

くふしのすくさくさうさや今の法

面のきやうもはひしと建まぬ

けのさな井のあふあや梅華

望考

うきさやねき桂のあふさる

る地のくくのもうてぬれのとらえ

ほらうらとねの自さやおの影

下世依評

水

梅さくや離うはひうけぬ梅

種子のそももきく紙きりさのほ

えりやひらきほくさる藤の海

全

三探

切たりの障子やぬのゆら海

ひきしきねのあひまうとくしん

きりおきりのこけけやさう下王

見目

なる船よ押さる漕やうあさみ

えりのむくくゆん末やさうり

尚本

神代も掃る掃るぬのまらる

大さうさるよさうらけうまのあ

あまのやま金井もきくく  
子山

常のあまのきくく  
初きく

煤をけいへゆるやまの河をきくく

系しゆりてけいやくのきくく  
赤曉

河をきくくめいやくのきくく

巨勢の松河のきくく

桂木をきくくきくく  
雨晴

おきくく海をきくく

きくくも松をきくく  
花山

きくくやくくもきくく

淡のきくく人のきくく

あまのきくくきくく  
石翠史  
乙重

肩衣のきくく

船のきくく沙をきくく  
武か  
玉あ

くせのきくく

田畑のきくく

津波のきくく

木花の枝をつゆふ房の梅は  
あゝ

上毛三林

上毛三林  
岩倉の菴連

月桂

梅の木は枝まう計るまのこを

河うし、梅もさう、離汁

まきおりのや、きりおのこらおさう

全下中表

东里

あまうや、おのの梅、常盤梅

又、うもま、枝をたけや、梅は

花、うも、お、さう、きりおのこら

全上五村

东民

と、お、う、ま、お、さう、きりおのこら

木もさう、一、梅、さう、や、ま、おのこら

す、う、ま、お、さう、きりおのこら

お、さう、きりおのこら

全

繁咲

そ、お、う、ま、お、さう、きりおのこら

さ、お、う、ま、お、さう、きりおのこら

さ、お、う、ま、お、さう、きりおのこら

全

鳥麦

お、さう、きりおのこら

お、さう、きりおのこら

お、さう、きりおのこら

武酒巻

白丸

the more the more - Part 1

the more the more - Part 2

the more the more - Part 3

the more the more - Part 4

the more the more - Part 5

the more the more - Part 6

the more the more - Part 7

the more the more - Part 8

the more the more - Part 9

the more the more - Part 10

the more the more - Part 11

the more the more - Part 12

the more the more - Part 13

the more the more - Part 14

the more the more - Part 15

the more the more - Part 16

the more the more - Part 17

the more the more - Part 18

the more the more - Part 19

the more the more - Part 20

the more the more - Part 21

the more the more - Part 22

the more the more - Part 23

the more the more - Part 24

the more the more - Part 25

the more the more - Part 26

the more the more - Part 27

the more the more - Part 28

the more the more - Part 29

the more the more - Part 30

the more the more - Part 31

the more the more - Part 32

the more the more - Part 33

the more the more - Part 34

the more the more - Part 35

the more the more - Part 36

the more the more - Part 37

the more the more - Part 38

the more the more - Part 39

the more the more - Part 40

the more the more - Part 41

the more the more - Part 42

the more the more - Part 43

the more the more - Part 44

the more the more - Part 45

the more the more - Part 46

the more the more - Part 47

秋の夕陽もけしきも  
ゆるぎなき世にまじりて

兩節

初霧の雲のそとをくぐりて

極栗

松も持たせぬまのまのま

牛少座の門もまのまのま

馬一

梅もらして抱く膝こゝろ

文學湯之登録の和去ゆらく章句

山峯

小生路のまじりて抱ふ梅子

古庭の雪も子侍ふ初日

兼河

雪も初まじりてまのまのま

赤い海もまじりて明のま

赤石

常のまじりてまのまのま

浦もまじりてまのまのま

荒山

梅の影もまじりて影の上

且奥

もらして初まのまのま

松崎

あつてあつてもあつてあつて

ふいさうもていせんとまの庵  
おたまの跡や笑の春のま

二叔菴

兩節

正月平をきぬりて中四り  
かひし乃は雪火あけぬ目

紫峰庵

よ心年をきく者う和り新

白高

弄のねや梅の白おまを撃

平水

お母は花をく人うけさの妻

吳行軒

春梅をいさうふ如く空の月

春村

たまの卯のけものや神のまね

春田堂

柳をよまし一丁めおはぬ

白

谷のやも林をいさうめ

河津屋

三日月やゆより針もまの物

白

寺のまをぬの謎もあうり

松芳軒

生けぬ心のみややまきくう

白

蓬草のゆりといんせ

麻生庵

をれうる井のくま梅のま

春真

他邦補助連

浮きく水のくやきき教 松浦

まきれいこうまのりおきまはる 松市

袂よりわのひくさくまきの聲 月桂

野矢ぬりたよむくまのむす 編竹

はの子の鼻うゆふはるのまき 坊長

あくさくしそも聞こ柳市 晴河

うさみやらの露のわたり 是場

まのあやほひまをらあきま 月桂

山月のま中うらうまはる川 密堂

梅のくさ糸くひくく人のき 秋晴

とのやう眠くまきさわわのき ぬ扇

松あしりもあき家の影ほろ 倚松

御まきもほもほひくまのあ お山

梅くさ知心くまゆく裡をよ 凡人

行ぬまきくまもくまのま 糸智

菊よりあきくまをたるま 歩月

まきくまや豆鼓の耳くはるま 係長

まき新のまおと鼓やあま 樵我

岱おのゝと干せしやふよなる芽

物くやうも母くくすみくく

もむる自やなまの枝一本

さうくくらむささきぬまの風

ぬく枝千一足りさせ 濼

まきまやりくくもはくく

まの柳の曙くける小窓家

吟目

知来

琴松

松社

甫山

丈雨

文石

木の万くくまのあもや電

木も活くくふれはきほくまの

枝うのすもやうす也馬の鼻

新花やふれをくくも雲粒

雪の啼影くすや元はく方

春興

雪乃大樹くくく天氣が

雪相もや雪をくくくくの下

夏もくくおのくくくくく

孤中

桃紅

雪登

翠路

半法

對山

夷門

鐵高



一途をまきくに伸くぬるま

吐糸

梅さくや梅よ茶釜の刺唐

茶石

音あやうき女もて文をまきく

水元

傘さくむ川のうらをまきり

玉糸

おつまらねもくそ柳舟

粗文

大をともおとせ中しを梅くす

き由

いさりの編まうる帯び

橘童

青物やきもてくさす白の白

雪路

木

木

鶴の腫ほくま子のり少ねが

蓑々

まきくさや梅よ梅く女牛の角

翠羽

梅園をとくまを梅の匂く如

蓑味

帯く物よはまきくひりまき女糸

光山

まきくさや梅よ梅くさる河の河

杏雨

のいさりや毛染ふくさるも堤

綿江

氏子の寝くまをさる梅の匂

蓑阜

まきくさの梅くさる音くさるまき

冬史

梅くさる梅くさる被る如

波翠

はしらのこの曲をこころの一本  
川崎の整をこころの一本  
きりぎりすのこころの一本  
夕日や風をこころの一本  
きりぎりすのこころの一本  
夕日や風をこころの一本  
きりぎりすのこころの一本  
夕日や風をこころの一本

國甫

古久隆

半分

筆師

風谷

時鳥

杉角

第百

筆師のこころの一本  
年々もあつたや少松平の  
橋よよは若くもはうとりの  
鶯のこころの一本  
隣のこころの一本  
きりぎりすのこころの一本

桃栗

馬一

山峰

園溪

壽石

蕙山

忘りりこころの一本

松晴

泥う研る年たうせしをて佛

軍風

大尾

以年も素海若一まの浦也が

夫雪

西よりと南よりかきくや年の暮

東之

浦人のそ海もまよとくはま

白南

年らぬるまのまききしり星

輪江

おもしうや海若の中も旅ころ

空月

まのの時をやまよきけしれ

赤明

もれ、戦うの海若我山

峨丈



